



2005 ITU Triathlon World Championships

Gamagori, Junior Male & Elite

2005 ITU トライアスロン世界選手権蒲郡大会

ジュニア男子・エリート

11 September 2005



ジュニア男子はデュプリンスキーが優勝。

エリート女子はスノーシルが2度目、エリート男子はロバートソンが3度目の優勝

11日(日)、2005 ITU トライアスロン世界選手権蒲郡大会は、ジュニア男子とエリートのレースが行われた。

午前9時にスタートしたジュニア男子は、ジェームス・シーア(オーストラリア)が9分18秒でスイムをトップフィニッシュ。日本選手は古川哲也(チームゴーヤ)が34位で水から上がった。バイクでは、最終的に37名の集団ができ、ランへと移った。ランでは、序盤からスティーブ・デュプリンスキー(アメリカ)がトップに立ち、そのまま逃げ切って優勝した。2位はジョナサン・ジフ(ドイツ)、3位はオーレン・ラファエル(フランス)。日本選手は、スイム35位の比嘉和真(チームゴーヤ)がバイクとランで頑張り、15位に入った。

10時45分にスタートしたエリート女子は、今期で引退するというシーラ・タオルミナ(アメリカ)が19分32秒でスイムを終えると2秒後にはエマ・スノーシル(オーストラリア)、そこから6秒以内にバーバラ・リンクイスト(アメリカ)、アナベル・ラックスフォード(オーストラリア)、ジョアンナ・ザイガー(アメリカ)、ローラ・ベネット(アメリカ)、シルビア・ジェミニャーニ(イタリア)、ベッキー・ラベル(アメリカ)が後を追う。日本選手は忽那静香(日東紅茶 TEAM KEN'S A&A)が18位。バイクではジェミニャーニとラベル、ザイガーが後退し、ベネット、ラックスフォード、タオルミナ、スノーシル、リンクイストの5名が先行してランに飛び出したが、スノーシルがすぐにトップを奪って快走。そのまま2度目の優勝を飾った。2位はラックスフォード、3位にベネットが入った。日本選手は、庭田清美(アシックス・ザバス)が13位となった。スノーシルはレース後、「よくコントロールされた大会で、湿気は多かったけど走りやすかった」とコメント。庭田は、「暑さにやられた。日本選手は海外選手に比べてレースに臨むメンタル面が弱いのではないかと指摘した。

午後1時30分にスタートしたエリート男子は、スイムから集団で推移。リチャード・スタナード(イギリス)が18分45秒でスイムを終えると、1分以内に65名が水から上がった。日本選手は平野司(関西大学)が12位。バイクでは序盤から37名の第1集団ができ、周回を重ねるごとに集団は膨れ、バイク終盤には59名の大集団となった。ランでは、満を持したようにピーター・ロバートソン(オーストラリア)が飛び出し、徐々に後続を引き離して3度目の世界選手権優勝を果たした。2位はレト・フグ(スイス)、3位はブラッド・カーフェルト(オーストラリア)。日本選手は、スイムで63位と遅れながらもバイクで挽回した山本淳一(K's-Y・稲毛 ITC)が28位に入った。ロバートソンは、「参加が決まったのが2週間前で、そこから練習を開始した。勝ててうれしい」と、語った。山本は、「暑さが厳しかった。スイムで遅れたのはしかたがない」と、振り返った。

なお、レースの様子はフォトギャラリーをご覧ください。

